

〔賤のをだ巻〕志道軒は女と出家が嫌ひにて、婦人出家の内來りて、聞人に交り居れば、段々と當て口をいひ出して、後は居た、まれぬやうになる故、彼が辻には婦人坊主は來らず、

〔續近世時人傳〕大橋東堤 永田觀鷺○中略

觀鷺永田氏、名忠原、字俊平、一號東臯、又黎祁道人といふは、豆腐を嗜むこと甚しければ也、豆腐は異稱、又一奇僻は、糖漬の菜俗に香物といふを惡むこと、蟲毒のごとし、吾儕席を同じうする時も、これを喰ふことを憚る、甚香を忌が故なり、或尊貴へ參りし時、御戯に試んとおぼして、此物を幾重もつ

つみて、御手づから下し賜せしを、とりもあへず、顔眞青になり、物おぼえずなげすて、走れり、其公もあまりにて、よしなきことせしと悔させ給ひしと也、

〔類聚名義抄〕女ニ妬ソ丁○故反音タム 妬正子○タム○ 妬古 妬子タムム 嫌正嫌子タムム 或胡兼反 嫉子

音疾ニクム 子タム ヲラムソウラムヤム音 嫉音逸タム 〔同大〕猜子戈反、〔同心〕憾子憾子胡感反子タムム 慷慨子

タム 懇子音忽 嫌下兼反 憎音音管 〔同人〕事音 媿子タムム 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

〔伊呂波字類抄〕人字事ウウハナリオム 亦作妬ミス音、 〔同人〕事音 媿子タムム 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

妬 嫵 嫉 媿 猜 妒 落 慳 已上子タム 〔同〕媿音 媿子タムム 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

〔運歩色葉集〕媿音 媿子タムム 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

〔書言字考節用集〕言八辭音 妬音 猜音 嫉子タムム 得生惱見他有 妬音 媚音 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

〔日本釋名〕人中事音 嫉音 そばよりねたむ也 媚音 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

〔倭訓栞〕前編 二十二 ねたむ 媚音 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

べし、古今集にねたくともよめり、靈異記に惻をよみ、又慷慨をもよみ、新撰字鏡に惻をねたくとも、

いきとろしともよめり、

〔倭訓栞〕前編 十三三 そねむ 媚音 媚子夫子タムム 婦也 嫉音疾

媚疾をいふ、傍妬の義成べし、日本紀に嫌をよめり、猜も同じ、万葉集に